



バーチャルマイクروفोनシステム(VMS)

ユーザーガイド

はじめに.....	2
設定方法.....	3
使用方法.....	4
ターゲットマイクとプリアンプの初期選択.....	4
録音.....	5
録音後のマイクとプリアンプの変更.....	5
ヒントとコツ.....	6
オーディオインターフェースの入力ゲイン設定.....	6
VMS プラグインの INPUT と OUTPUT TRIM の設定	6
ランブルフィルター.....	6
インテンシティ（強度）	7
プロキシミティ（近接度）	7
デュアルマイクモード.....	7
安全上の注意等	8

はじめに

Slate デジタルバーチャルマイクシステムは、世界トップクラスの必要不可欠なマイクロホンモデルのコレクションを、非常にお求めやすい価格でスタジオにお届けする画期的な製品です。この素晴らしい体験は、特別に設計され最適化された **ML** シリーズマイクロホンと、当社のバーチャルマイクシステムソフトウェアプラグインの組み合わせによって実現されます。

VMS を十分に理解し、その価値を最大化するために、このユーザーガイドの内容をじっくりお読みください。**VMS** は非常にシンプルで直感的に使用できますが、このガイドには最高のパフォーマンスと結果を確実にするためのいくつかのポイントがあります。

セットアップ

新しい ML シリーズマイクロホンは、他のマイクロホンと同じようにセットアップします。

1. 付属のマウント器具を使用して、マイクをマイクスタンドにマウントします。マイクロホンを手に持って使用することも可能ですが、マウントすることで、マイクロホンを誤って落としたり、ハンドリングや移動に伴う好ましくない物理的ノイズを最小限に抑えることができます。
2. オーディオインターフェースのマイク入力を確認します。マイクの動作に必要な電力を供給するために、オーディオインターフェースマイク入力にファンタム電源を供給できなければならないことに注意してください。
3. オーディオインターフェースのマイク入力の入力ゲインを下げ、ファンタム電源がオフであることを確認します。これにより、マイクを接続する際に大きなノイズが発生するのを防ぐことができます。必要であれば、マイク入力のファンタム電源を切り替える方法について、オーディオインターフェースのユーザーマニュアルを参照してください。
4. 高品質の XLR マイクケーブルを使って、マイクをオーディオインターフェースのマイク入力に接続します。ケーブルのブランドや長さは問いません。
5. オーディオインターフェースのファンタム電源を有効にします。これでマイクに電源が供給され、動作し始めます。
6. マイクに向かって歌ったり演奏したりしながら、オーディオインターフェースの入力ゲインをゆっくりと上げていきます。オーディオインターフェースのレベルメーターが、入力されたオーディオレベルを示し始めるのが見えるはずです。
7. DAW ソフトでオーディオトラックを作成し、オーディオインターフェースのマイク入力をトラックの入力として選択します。これで、あなたの歌や演奏が録音されるトラックとなります。すべての DAW の機能は少し異なるので、チャンネルを作成し、オーディオ入力を割り当てる方法については、その DAW のユーザーガイドを参照してください。
8. **Virtual Microphone System** プラグインをオーディオトラックに「インサート」として読み込みます。このオーディオトラックに他のプラグインを使用する場合は、Virtual Microphone System プラグインが他のプラグインより先に最初の位置にロードされていることを確認してください。
9. **Virtual Microphone System** プラグインで、プラグインの左上隅にある "ソースマイク" としてマイクモデルを選択します。
10. ヘッドホンをつけたまま、オーディオトラックの入力モニタリングを有効にします。これにより、マイクで拾った音声ヘッドフォンで聞こえるようになります。

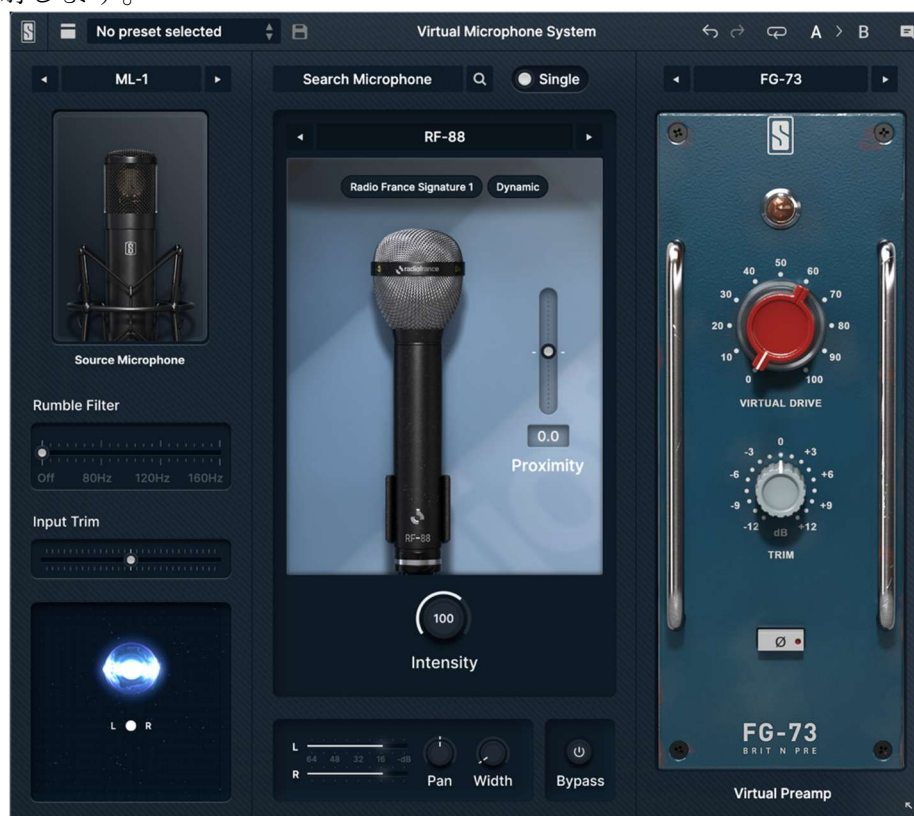
使い方

マイクが接続され、動作し、Virtual Microphone System プラグインが DAW にロードされたので、マイクに利用可能な様々なバーチャルマイクモデルを試し始めることができます。

最初のターゲットマイクとプリアンプの選択

Virtual Microphone System プラグインの中央エリアでターゲットマイクを選択すると、入力されたオーディオにそのマイクの特徴が即座に適用され、サウンドにどのような影響があるかを判断することができます。他のマイクモデルに簡単に切り替えて、特性を比較することができます。

マイクディスプレイの中央部分をクリックすると、利用可能なすべてのマイクモデルを表示するクイックブラウザが開きます。ブラウザの外側をクリックするとウィンドウが閉じます。



選択したマイクモデルの画像の上に、選択したマイクに関連する 2 つのタグが表示されます：拡張パック名とマイクタイプです。例えば、パック名は "Radio France Signature"、マイクのタイプは "Tube " となります。これらのタグをクリックすると、その選択のオン／オフを切り替えることができます。例えば、"Tube " タグを有効にすると、マイクのスクロールは Tube タイプに限定され、ダイナミックマイク、コンデンサーマイク、リボンマイクはスキップされます。

録音にさらなる色彩とサチュレーションを加えたい場合は、Virtual Microphone System プラグインの一番右のスロットにあるバーチャル・プリアンプ・モデルの 1

つをロードすることもできます。この段階でプリアンプのバーチャルドライブ量を調整したり、位相を反転させたり、出力トリムを調整することができます。

録音

セットアップが完了したら、通常の **DAW** と同じようにレコーディングを進めることができます。ワークフローは、レコーディングに使用する他のマイクと変わりません。

録音後のマイクとプリアンプの変更

バーチャルマイクロフォンシステムの優れた利点の一つは、録音後にマイクやプリアンプのモデルや設定を変更できることです！

通常のマイクを使うのとは異なり、録音時にどのマイクモデルを選んだか、プリアンプはどのように設定されたかを気にする必要はありません。レコーディングの初期段階では良い音でも、ミックスダウンの段階で適切な音でなくなることはよくあります。そのような場合は、マイクやプリアンプのモデルを、最終的なミックスに適したものに 변경することができます。

Virtual Microphone System プラグインを再度開き、マイクモデルやその設定を変更するだけで、すぐに新しい選択の結果を聞くことができます。さらに、**Virtual Microphone System** で録音された各オーディオトラックには、それぞれ固有の **Virtual Microphone System** プラグインのインスタンスがロードされているため、すべてのトラックに対して異なるマイクモデル、プリアンプ、設定を選択することができます！

あるマイク・モデルはリード・ボーカルをミックスの前面に立たせるために必要な明瞭さと存在感を与え、別のマイク・モデルはバック・ボーカルをソフトにしてリード・ボーカルの後ろに心地よく座らせ、サポートを提供します。バーチャル・マイク・システムは、最終的なミックスをバウンスするまで、究極の柔軟性と選択肢を提供します。

ヒントとコツ

オーディオインターフェイスの入力ゲイン設定

オーディオインターフェイスの入力ゲインを設定するときは、パフォーマンスの最も大きな音量を再生するときに行います。つまり、シンガーは最大音量で歌ってみたり、楽器奏者は意図した通りの音量で演奏してみたりします。

演奏者がこれらの大音量セクションを演奏している間、入力オーディオレベルが **-12dBFS** を超えないように **Input Gain** を設定します。入力ゲインを適度な高さに設定するのは良いことですが、パフォーマーがレコーディング中に「その場の勢いで」最初の練習やセットアップのときよりも大音量で演奏するのはよくある現象なので、ある程度のヘッドルームは常に維持すべきです。そのため、最初のセットアップ時にある程度のヘッドルームを確保しておけば、レコーディング時にオーバーロードによる歪みで大きなパフォーマンスが台無しになることはありません。**24** ビットフォーマットで録音する場合は、音質を犠牲にすることなく、ヘッドルームをもっと自由にすることもできます（例えば、**-20dBFS** を超えないようにする）。

さらに、入力メーターはしばしば"遅く"、平均的な入力レベルを示す傾向があります。非常に鋭い（短くて大きな）過渡現象はメーターで見逃されることがありますが、それでもオーディオインターフェイスがアナログ信号をデジタルに変換するときに歪みを引き起こします。レコーディングのヘッドルームを確保することで、これらのトランジェントを歪みなく、クリーンかつ正確にキャプチャすることができます。

VMS プラグインの INPUT と OUTPUT TRIM の設定

いくつかのマイクモデルの動作により、**Virtual Microphone System** プラグインからの出力信号は、実際に入力される信号よりも大きくなる場合があります。前のセクションで説明したように、録音時にヘッドルームをある程度確保しておく、プラグインのオーバーロードを防ぐことができます。

しかし、上記の予防策を講じてもなおオーバーロードが発生する場合は、**Virtual Microphone System** プラグインの **INPUT TRIM** スライダーを小さくしてヘッドルームを追加するか、プラグインの **OUTPUT TRIM** を小さくして DAW の後続プラグインに入力されるレベルを下げるすることができます。

ランブルフィルター

ランブルフィルターは、録音環境（換気システム、外部のロードノイズなど）によってはマイクに拾われる可能性のある極端に低い周波数を除去するために使用できます。このスライダーを直接調整して特定の周波数を設定するか、**OFF**、**80Hz**、**120Hz**、**160Hz** のラベルをクリックして、これらの標準フィルター値にスナップさせることができます。

強度

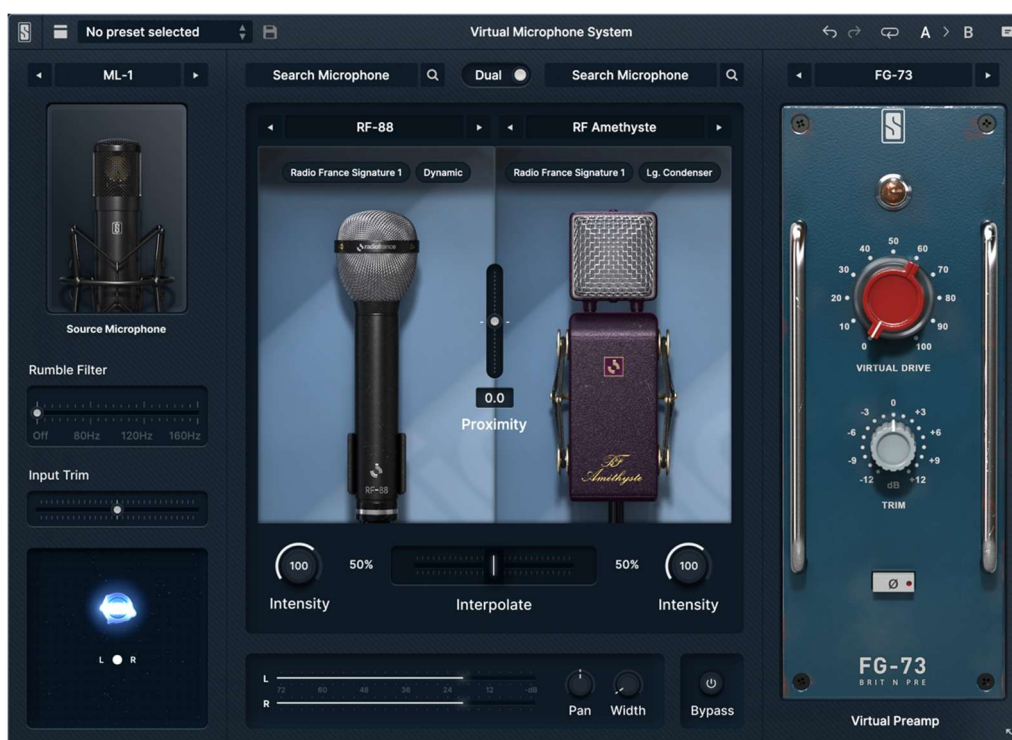
インテンシティノブは、選択したマイクロフォンモデルがオーディオに適用される量を調整するのに使用します。**100%**の場合、モデルは正確に適用されます。**100%**より小さい値では、入力音声の元の特性がより多く聞こえます。**100%**以上の値を設定すると、マイクモデル独自の特性が誇張されます。

近接度

Proximity スライダーを使用すると、マイクを音源の近くに置いたときに生じる「近接効果」を再現できます。この値を大きくすると（スライダーを上動かすと）、マイクを音源に近づけたときのような低音域が追加されます。逆に値を下げると（スライダーを下げると）、マイクを音源から遠ざけたときのように周波数が下がります。

デュアルマイクモード

2つの異なるマイクの特性をブレンドして新しいハイブリッド動作を作り出すことで、事実上無限のマイクモデルを試すことができます。**Single** スイッチを **"Dual"** ポジションに切り替えると、2本目のマイクが露出します。右側のマイクに別のモデルを選択し、**Interpolate** スライダーを使って2つのマイクモデル間の動作を「モーフィング」します。



安全上の注意

- ・この説明書をよく読んで保管してください。
 - ・すべての警告に注意し、すべての指示に従ってください。
 - ・本機を水の近くで使用しないでください。
 - ・お手入れは乾いた布で行ってください。
 - ・ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、その他の熱を発する機器（アンプを含む）の近くには設置しないでください。
 - ・雷が鳴っているときや長時間使用しないときは、本機の電源プラグを抜いてください。
 - ・この説明書の指示に従って設置してください。
 - ・メーカーが推奨するアタッチメント／付属品のみを使用してください。
 - ・修理はすべて資格を持つサービス担当者に依頼してください。本機に何らかの損傷が生じたとき（本機の中に液体をこぼした、物を落とした、本機が雨や湿気にさらされた、正常に動作しなかった、落下したなどの場合）は、修理が必要です。
- SSLは、許可されていない者によるメンテナンス、修理、改造によって生じた損害については責任を負いません。
- ・本機を改造しないでください。改造は、性能、安全性、および/または国際準拠規格に影響を与える可能性があります。
 - ・本装置に接続されているケーブルに負担がかからないようにしてください。ケーブルを踏んだり、引っ張ったり、つまずいたりしないようにしてください。
- 警告：聴覚障害を防ぐため、大音量で長時間使用しないでください。音量レベルを設定する目安として、ヘッドホンで聞きながら普通に話すと、自分の声がまだ聞き取れるかどうかを確認してください。

・弊社正規販売店でご購入いただいた製品に限りまして、製品保証〈1年〉をご提供しております。

また、正規販売店でご購入いただいた製品以外は保証の対象外となりますのでご注意ください。保証期間内の修理が必要となった場合はご購入いただいた 正規販売代理店へご連絡ください。国内保証期間は購入日より1年間となります。国内保証書は製品に添付されておりません。正規販売代理店が発行した日付の入ったメール、レシート、納品書等をご用意の上、ご購入いただいた販売店へご連絡ください。販売店にて購入履歴（保証が発生する場合は購入日）を確認し、販売店を通じて修理・サポートのご対応をいたします。また、修理期間中の代替機の貸し出しは行っておりません。

Slate Digital 製品 輸入代理店
AT distribution / ソリッドステートロジックジャパン株式会社
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目55番14号

<https://atdistribution.net>